

■教育目的

病態生理学は、主要な疾患の成り立ちや病態（症状）を学ぶのが目的である。解剖生理に基づいた症状・疾患の成り立ちを理解できるようになることが最も重要。特に主要 5 臓器について詳しく学習して、それぞれの臓器の主要な病態について自信をもって答えられるようになることを目標とする。黒板とスライドによるオーディオ・ビジュアル授業と症例による演習によって知識を身につける。【卒業認定・学位授与の方針：YD-③、SD-③】

■学習到達目標

1. 主要な臓器の原因疾患の病態生理が説明でき、なぜそういう症状がおきるかが理解できる
2. 主要な疾患の頻度や予後、重症度や患者ケアがわかる
3. ある特定の症状から原因になっている疾患を推定できる
4. 推定した疾患を診断する方法が提案できる
5. 検査の異常値や異常形態について説明できる

■準備学習（予習・復習）

予習：該当臓器や病態の国家試験出題基準の主要疾患（Mycast にアップされる）について参考書や web で確認しておく（20分）。復習：臓器別に授業ノートや参考書を中心にサブノートを作成（60分）。

■授業内容

スライド・黒板を活用した講義形式で主要 5 臓器を 2 回ずつと全身にわたる 5 病態を 1 回ずつ学習する。国家試験の出題基準に指定されている疾患での病態と症候の部分を重点的に学習する。

No.	項目	授業内容	SBO コード
1	病態生理学総論	病理学総論、臨床検査学総論、病因論、症候学、画像診断学、臨床統計学	E2(1)~(6)
2	循環器	心不全、虚血性心疾患、高血圧症、不整脈、弁膜症、先天性心疾患	E2(3)-①
3	呼吸器 1	肺炎、肺結核	E2(4)-①
4	呼吸器 2	気管支喘息、肺気腫、肺線維症	E2(4)-①
5	消化器 1	胃腸疾患	E2(4)-②
6	消化器 2	膵炎、肝疾患、胆石症	E2(4)-②
7	腎臓 1	ネフローゼ症候群、	E2(3)-③
8	腎臓 2	腎不全、透析、腎移植	E2(3)-③
9	神経内科 1	脳血管障害、変性疾患、	E2(1)-③
10	神経内科 2	頭痛、てんかん、筋疾患	E2(1)-③
11	代謝疾患	糖尿病	E2(5)-①-1
12	血液疾患	貧血	E2(3)-②-3
13	内分泌疾患	甲状腺疾患	E2(5)-②-3
14	膠原病	関節リウマチ	E2(2)-③-1
15	生殖器疾患	異常妊娠	E2(3)-③-7

■授業分担者

三田充男（No.1）、石橋賢一（No.2~10）、田中靖子（No.11~15）

■課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

MYCAST を利用して復習し、疑問点はオフィスアワーを利用すること。期末試験 90 %，出席（レポートを含む）10%で評価する。

■教科書

必要に応じてプリント、演習問題を配布。

■参考書

navigate シリーズ（医学書院）：循環器疾患、神経疾患、腎疾患、呼吸器疾患、消化器疾患